

囲碁にまつわる言葉 【大局観】

碁老連だよりは、「ボケ防止のための囲碁大会」に備え八王子全市の町会、団地自治会、及び老人会などに回覧用チラシ約 13,000 枚を配付して啓発運動を展開したとあります。もの凄い意気込みです。特に級位者の参加者が非常に少なかったため、その対策を考えていたようです。本来なら、囲碁人口としては一番多いはずなのは級位者の人たちです。しかし、級位者は碁を打つ機会がなかったようです。その理由を、会長の熊沢正一氏は次ぎのように述べています。

1. 現在、町会や団地内の囲碁部では参加者が有段者中心となっており、このクラスになると敬遠されるようだ
2. 町会や団地内で碁を打っていても、若い人たちはどんどん昇格するが老人は取り残されてしまいがちなので、厭になってやめてしまう者が多い
3. 以前は各地で老人同好者が集まり、碁会を開いていたようだが、最近ではゲートボールに走る者が多い
4. 勤務先の職場で碁を打っていた人たちは、退職後、近所では碁の相手がみつからない
5. 碁会所では、級位者は相手に選ばれないので、気落ちしてしまい永續しない

以上のような分析は、今の八王子囲碁連盟の現状に示唆を与えています。

----- 【大局観】 -----

広辞苑によりますと【大局】とは「物事の全体のなりゆき」とあります。ですから【大局観】は物事全体の動きに対する見方とか形勢判断となります。こうした形勢判断は、現実社会においてなにかプロジェクトを推進する者にとっても重要なスキルです。このスキルを磨くには、部分から全体を類推するという視点が要求されます。統計学の1つ、推測統計の考えかと同じことです。



標本というサンプルから母集団という全体を推測するという手法です。

囲碁、将棋、チェスなどのボードゲームで、的確な形勢判断を行う能力が大局観です。部分的なことに囚われずに全局的な視点から判断するということです。囲碁は他のゲームに比べて大局観で次の一手を決める割合が高いのです。常に全体を見て総合的に判断できる人が囲碁の強い人といわれます。

大局観を育てるためには、5つの要諦があるといわれます。1つは、方針となる理念・信条を確認すること、2つには、方向を示す具体的目標であるビジョンを描くこと、3つには、ビジョン達成の行く手を阻む変化を適確に予見し、精査すること、4つには、目標達成のために必要な戦略を練り上げていくこと、そして5つには、状況によってシナリオからはずれた場合、何らかの対応策を用意すること、といわれます。

大局観を育てるには、「鳥の目」、「魚の目」、「虫の目」といわれる3つの目をも持つことだともいわれます。鳥の目とは、高所から広い範囲を見渡すこと、すなわち「鳥瞰」することです。マクロな視点ともいわれます。次ぎに魚の目というのは、物事の流れや変化といった「動き」を捉える視点のことです。虫の目とは、細部に注目するミクロな視点でみる、ということです。物事の全体を見るという用語に「俯瞰する」とか「俯瞰像」がありあます。大局観と同義です。英語で大局観は「perspective、strategy、tactics」ということになります。

(2023年7月7日 大和田囲碁同好会 成田 滋)